施設長の小さな“つぶやき”から始まった、地域と事業所のつながりの話。

みんなでつくった農園記念日

地域の魅力がギュッと詰まった「話し合いの場」

地域の人も民生委員も事業所も、行政も社協も参加して、みんなでこんなことができたらいいな…と意見を出し合ってきた「話し合いの場」。これまでは、他市町村の取り組みから学ぶことが多かったものの、今回（９月３０日開催）は私たちの町で取り組まれた、たくさんの素敵な実践を共有することができました。

その１　何もなかった施設の裏に、まさか、こんな畑ができるなんて…

町内にある有料老人ホーム「丘の上の白い美術館に住む人たち」。珍しい名前のこの施設に、地域と社協が関わって農園ができました。

きっかけは、施設長の「畑を作りたいという、入居者の願いを叶えてあげたい」そして、「できるなら、地域の人たちの力を借りて一緒にできたら素敵だな」という一言です。社協がその思いを知ったことから、すべては始まりました。

さっそく施設のある地域周辺の区長を中心に声をかけてみると、施設見学や話し合いを重ね、７月から施設が所在する野間二区に加入することが決まりました。晴れて地域の一員となったことで、区の行事等のお知らせも届くようになり、職員と入居者が一緒に地域の清掃や盆踊りにも参加するようになり、施設に来てもらうだけでなく地域へも出ていくことのできる〝お互いさま〟の関係を築いています。

そして９月末、耕運機を押し鍬（くわ）を担いだ地域の有志が集まって、入居者・職員と一緒に草をぬき、固い土を耕してついに畑の形ができました。翌月には、不安定な土の感触を楽しむように、入居者が先生となって種をまき、苗を植え、今では毎日の水やりが入居者の日課となっているようです。

「みんなでつくった農園にスイカを植えて、夏には地域の子どもを呼んでスイカ割りをしよう」と、これからの夢もふくらんでいます。

１人の小さな思いも、つながれば大きな「地域の力」になる

①職員と入居者で施設の裏に作っていた小さな菜園。
②入居者と一緒に、地域の力を借りて立派な畑となる。
③畑づくりのきっかけとなった農業を営んでいた男性。普段は歩行器を使っているため、座ったままの状態で作業の様子を眺めていた。
④２日目、その男性は職員に頼んで畑に腰を下ろし、種をまいた。心が体を動かす。
⑤初日の作業は入居者４名が参加。２日目、畑に来た入居者は１４名に増えていた。